

超初期モデルとは思えない!! 走行10万km オーバーとは

今月の「996リフレッシュ計画」は
メンテナンスを一旦お休みして、
ちょっと箱根までドライブ。
目的はインプレッション!
4本で送料込み4万円しない
台湾製ナンカンタイヤの実力を
試すべく乗り込んだのは、
松田秀士、半谷範一、武井寛史。
3人はナンカンタイヤに
どのような印象を持ったのか!
ヤラセ一切なしでお届けします。

撮影●森山良雄
取材協力●(株)スピードジャパン
TEL:03-3555-8865
http://www.speedjapan.co.jp

4本で送料込み4万円弱
台湾製ナンカンタイヤを
箱根で試す!



TESTER 松田 秀士

低速から高速まで一様に乗り心地がよい。
911との相性がかなり良いのにビックリです!

ーと感じるはずだ。逆に、僕にはちよ
うど良い好みの応答レベル。
芸能人格付けチェックならぬレーサ
ー格付けチェックがあったとして、ど
ちらがミシュラン?と目隠しされて
迷わずナンカンを選び、写す価値ナシ
になりかねない、オレ。
いや、それくらいに、911との相
性がかなり良いです、このタイヤ。
そんな恐ろしいタイヤで、真剣に箱
根を攻めてみました。ブレーキ性能は、
ブランド物を100として75%と言え
るレベルだろうか。
しかし、驚くことに曲げやすい。前
後のグリップバランスが良いのだ。
不必要にグリップレベルを上げてい
ないから、ステアリングの操舵角が浅
い。ショルダーが硬すぎないから、プ
レーキングでの荷重移動を使うと粘り
すぎないでリアタイヤが滑り出す。し
かも、限界を追い求めているので比
較的マイルドな滑り出し方。操舵角が
少ないから、誰にでもとは言わないが
スライドコントロールがしやすい。
ハイパフォーマンスカーに相応のスタ
ビリティを求める人には勧めないが、
コントロールを楽しむみたい向きに
はかなりお勧めなのだ。
クルマの話に戻ろう。ショックアブ
ソーバーが抜けて、コーナリング初期
にオーバーシュートするなんて兆候も
なく、それなりのヤレはあるがサスペ
ンション系はいったって健康と診断する。
エンジンも、パンチ力という部分で
10%くらいダウンしているかもしれない。
でもね、全く気になりませんよ。
きつちりトッパエンドまでストレスな
く回りますから。
これなら、真剣に1台欲しいと思っ
ました。

信じられない!!

台湾製

NANKANG タイヤ なかなかじゃん!!!

ポルシェ
リフレッシュ
996
Refresh
計画

4

鯛に例えて「腐ってもポルシェ」と
昔言ってしまったことがあるが、この
ポルシェ、まさにそれである。
いや、腐っているとは決ま付けられな
いが、見てくれはそれなり。多くを期
待することなく、ギヤを1速にぶち込
んだ。クラッチの繋がりも普通だし、
べつにエンジンがブルブル震えるでも
なく、記憶の中にある996の広報車
に乗ったときと何も変わらない。
ウィークポイントといわれるシンク
ロの引っかかりも皆無といってよいシ
フトフィールだ。ボディの剛性が落ち
て、室内のガタピシやコーナリングの
応答性が落ちた、なんてこともほとん
ど感じられない。と、ありきたりな表
現だが、ホントにそう。
きちんと扱えば、10万キロを越えよ
うがポルシェは大きく老化するよう
なことがない、ということをこのクル
マは証明している。
さて、このポルシェはこの距離に
くるまでに、いったい何回タイヤを替
えたのだろうか? 後輪荷重の大きな91
1はリアタイヤの消耗が激しい。
だからというのなんだが、10万キ
ロ超の911にBSだのミシュランな
どのF1級ブランド物を投入するもの
どうかと編集部が思ったかは知らない
が、こんなタイヤを見つけてきたこと
に僕は拍手を送りたい。
その名も、台湾製ナンカンタイヤ。
それ、ナンカ?
笑いをこらえて、走り出した。路面
の掴み加減が柔らく、低速から高速
まで一様に乗り心地が良い。いや、ブ
ランド物より本当に乗り心地が良い。
ステアリングを切り始めたときの応
答感は少し鈍いが、マイルドな反応を
好むドライバーには十分にスポーティ



TESTER 武井 寛史

急に流れ出すハイグリップタイヤより
滑り出しが分かりやすくコントロールラブル。



超初期モデル走行距離不明、たぶん10万キロオーバー車の996。この編集部は物語になりそうな美味しい物件をよく見つけてくるよね！ まるで深夜のテレビ東京の番組みたいな雑誌。その心は「お金をかけなくても企画力で視聴者を引きつける」笑。

さて、今回依頼されたのはこんなポルシェのインプレ。現状を語る企画かと思いきや、交換したタイヤのインプレだとか。何やら装着されていたタイヤが減っていたから交換したみたい。しかも4本で4万円以下のタイヤに。中古かと思ったら立派な新品だとか。いくら過走行の996だといっても腐ってもポルシェだよ。よりによってそんなタイヤで大丈夫？ って聞いたら、平気かどうかインプレするのがアナタの仕事って言われ思わず納得。購入したのは「NANKANG」というメーカーのモノ。昔見たことがあったけど、実際に装着されたクルマを運転するのは初めて。

台湾製タイヤの個人的なイメージは、①ロードノイズが酷い、②バランスが悪い、③ブレーキ性能が悪い、④パーストしそう、⑤コンパウンドが硬い、⑥レイン性能が悪いなど。とにかく良い印象はない。唯一誉められるのは値段が安いところだけ。そんな先入観があるから、正直自分では絶対に購入しないタイヤ。20年以上前に韓国の某メーカーのタイヤを履いたことがあるけど、それがまた最悪だった。だから日本以外のアジア圏メーカー製のタイヤは、未だにダメなイメージのまま。

今回のインプレは一般道から高速、ワインディングまで全てを走破。まずは装着されたタイヤを自分の目で確認する事にした。性能の決め手ともいえるパターンはドライ＆ウェット路面で立派に使えそう。でもどこかで見た事のあるパターンなんだけど。まあとりあえず問題はなし。見て納得した後は実際にドライブ開始。

走り出して真先に感じたのはわりとロードノイズが静かだったこと。高速走行でスピードを上げて嫌なノイズは無い。また路面のギャップを乗り越えた時の乗り心地でも、嫌な揺り返しも無く意外にも良い。タイヤを交換して誰でも判断できる乗り心地とロードノイズはとりあえずOK。でも合格を出すのはまだ早い。重要なのはポルシェが最も得意とするフィード、高速走行とコーナリング性能。高速走行で重要なポイントはバランスと制動性能。性能が悪いタイヤはスピード域が高くなるとブレが発生し安定感を失ってしまう。ところが高いスピード域でも安定しているしバランスも良い。さらに急ブレーキを掛けてもタイヤが路面をしっかり捉えて減速する。

最後はワインディング性能。ステアリングの応答性はポルシェ独特の性能を損なわず十分引き出してくれた。S字の振り返りなど速いステアリングワークでも反応は良い。コースレアウトによって出るアンダーステアも判断し易いし、逆にテールスライドの始まりも判りやすいからマシンコントロールが楽だった。急に流れ出すハイグリップタイヤよりコントロール性能は抜群だった。悪口を書こうと思っていたのに意外な検討ぶりにビックリ。山が減ってからはどうなるか判断できないけど、新品段階ではポルシェ996とNANKANGタイヤのマッチングは◎だったよ。



TESTER 半谷 範一

妙なクセがあるタイヤじゃないので
練習用として購入するのも悪くないかも!?

ルに追い付いていないという感じとでもいまいしょうか。前回の取材でバランス取るときにあまり真円度が高くないという事は承知していました。でも、だからといって別に実際に走ってみて不快に感じるようなことはありませんでした。むしろタイヤノイズが今まで聞いたことない種類の音なんです。それに違和感を感じた程度です。

クルマに装着された状態でしか体感できないため忘れてしまいがちになりますが、タイヤはクルマ本体と同様に物凄くスピードで進化を続けています。その結果、以前には素晴らしいと感じたタイヤでも、今乗ってみると「あれっ、この程度だったっけ？」と思ってしまうことも珍しくありません。自分の腕が上がついているとは到底思えないので、きつとタイヤの進化に合わせて、こちらも少しずつ慣らされてきた結果なんですよ。

今回は他に他のプロのレーシングドライバーが二人もインプレッションをとってくださっているの、もう私なんかの出る幕はありません。読者の皆さんも、私が箱根を走った感想（文字通り、ただの感想にすぎません）なんて全然興味ないでしょうから、限界域での操縦性といった話題はもう全部お任せしちゃうことにしましょう。そういう話に興味がある人は、私の原稿は飛ばして読んでください。

実はこのタイヤを装着してから996に乗るのは今回が2回目です。先日、某車のスタジオ撮影の合間に、街中でちょっとだけ運転させてもらいました。その時の感想をひと言でいってしまうと、「少し前の国産タイヤみたい」というものでした。別にどこかに何か決定的に悪い所があるというよりは、全体が少しずつ最新の国産タイヤのレベ

このナンカンというタイヤ、率直に言って高性能スポーツカー用タイヤとしてはイマイチです。でも、これを買うような人は、最初から最新の高性能タイヤみたいな性能は期待しているとも思えません。これ履いて、RE01RやAD07と同じタイムが出ないなんて文句は言いませんよね。

こういうタイヤを選ぶケースっていうのは、とりあえず普段の足とかに使う目的で、別にハードな走りなんかしないという場合でしょう。前述の通り国産の高性能タイヤのレベルではありませんが、普通の実用タイヤとして考えれば必要十分な性能を持っていると思います。ウェットグリップがどの程度あるのか分かりませんが、少なくともすり減った高性能タイヤを使い続けるよりは、遥かに安全なはず。少なくとも高価なハイグリップタイヤを買って、無理矢理に賞味期限切れまで使うんだったら、このナンカンみたいなタイヤを買ってきて、2回交換した方がずっと良いと思います。

また、別に妙なクセがあるタイヤじゃありませんから、逆に練習用として購入するのも悪くないと思います。もしこの996が自分のクルマだったら、多分速攻で他のタイヤに履き替えてしまうことでしょう。それが私の本音です。でも、もし私の親父が自分のクルマ（某国産メーカー、〇ヨタの4ドアセダンです）のタイヤを交換するの、ナンカンはどうかと尋ねられたら、「中々いいんじゃない」って答えることでしょう。少なくとも私の親父みたいに近所の買物にしか使わないんだったら、このタイヤの性能だってお釣りがききますからね。

